

旧第3通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」第2回会議

I 日 時 令和2年2月7日（金） 10:00～12:00

II 会 場 長野市立長野高等学校 翼ホール

III 出席者 協議会委員 14名

IV 説明事項

- ・高校改革～夢に挑戦する学び～旧第3通学区第2回協議会 説明資料<20分間>
- ・多様な学びについて説明（総合学科、総合技術、多部制・単位制） <10分間>

V 意見交換テーマ

ポイント①「地域として」この地域の高校生に身に付けてもらいたい力
（高校生を育てていく上での課題等）

ポイント② 現在の旧第3通学区の高校に望むこと

（旧第3通学区でできる学び（地域課題）の提案）

ポイント③ 旧第3通学区 県に対してどのような学びの場を期待するか

VII 開会挨拶

（永松座長 信州大学教育学部 教授）

台風により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、支援にご尽力されている関係機関の皆様に心より厚く御礼申し上げます。被災により延期された第2回会議ではありますが、その重要性、役割はいささかも変わっていない。気を引き締めて臨んでいきます。20年、30年後の学びにつながるような議論をお願いしたい。

（北田副座長 小川村教育次長）

高校再編計画1次分に4地区の提案を盛り込む方向であるとの報道があった。意見提案書について、各地区で違った観点で議論が進められたようだが、学びのあり方等、旧第3通学区ならではのものが出せればよいと思う。中条校の学校評議員の経験から、義務と高校の連絡を密にしていかなければならないと強く感じている。

VIII 議 事

（永松座長 信州大学教育学部 教授）

本日の会議では、意見提案をまとめていくために、具体的なテーマに沿って意見交換を実施していきたいと考えている。委員各位から忌憚のないご意見を賜りたい。意見交換の進め方については、事務局から提案するのでご検討いただきたい。

（事務局）

委員の皆様方からのご意見を参考に協議のポイントを絞り込んだ。

ポイント①「地域として」この地域の高校生に身に付けてもらいたい力
（高校生を育てていく上での課題等）

ポイント② 現在の旧第3通学区の高校に望むこと

（旧第3通学区でできる学び（地域課題）の提案）

ポイント③ 旧第3通学区 県に対してどのような学びの場を期待するか

○本日は、ポイントの1・2（進められる範囲で）についてご検討いただき、ポイント3は次回以降の協議としたい。

（永松座長 信州大学教育学部 教授）

- 意見提案のまとめ方として、資料1の1～5を個々の議論を収める枠組みとして活用したい。皆様からいただいた議論を具体的な形で積み上げていきたい。
- 前回の質問等に関する回答、今後の協議に必要な高校改革の概要や実施方針、旧第3通学区の状況等を県教委に改めてまとめていただいているので、説明をいただいた後、議論に入りたい。

(県教育委員会 高校改革推進係長)

- 高校改革～夢に挑戦する学び～旧第3通学区第2回協議会 説明資料説明
- 多様な学びについて説明（総合学科、総合技術、多部制・単位制）
- お詫び：第1回会議の資料で、市立長野高校を都市部存立普通校と表記し説明をしてしまった件について、市立長野高校は、総合学科高校であり、都市部存立普通校には該当しないことを訂正してお詫びしたい。

【各委員からの質問・意見】 (→ は県の回答)

- 再編の方向性に関して、以下3つの質問がある。
 - ①旧第3通学区の学びの場の保障の観点について、中山間地校は残す方向でよいか。
 - ②隣接通学区を考慮して特色を出し、この地区に集めすぎてもいけないということか。
 - ③専門高校は全県から生徒を集めたいということか。

- ①に関しては、都市部存立校と中山間地存立校と基準を分けて対応。ぎりぎりまで残すという考え方。
- ②に関しては、流出が多い地域であることを踏まえて、特色を出しながら全体的にレベルアップをして、高校の質を向上させていくという考え方。
- ③の長野商業、長野工業高校に関しては、全県の拠点校としての役割を果たすためにも、ある程度の規模が必要と考えている。

- 隣接通学区を考慮しての協議では旧第3通学区としての特色を打ち出しにくいと思われるがいかがか。

- 本協議会では、まずは旧第3通学区の学びのあり方に関して、特色・魅力化等のご協議をいただきたい。

(永松座長)

実施方針の中の再編に関する基準等について、改めて確認をお願いしたい。

- 実施方針の61ページに再編に関する基準を掲載してある。

(永松座長)

中山間地存立校等、ギリギリまで残そうとする基準であるとは思いますが、学級編成が困難になった場合はその限りではないのか。

- 中山間地存立特定校の基準等、さらに割込んだ場合の基準についてもお示ししている。

(永松座長)

隣接通学区との関係について、どういう受検生が流出して、どういう受検生が流入してくるのか、受検生の量だけでなく、質の部分、中身について具体的な資料をお持ちであれば議論の参考にしたい。

○総合学科等、満足度は資料に掲載されているが、実際の進路状況や具体的な成果がわからない。

→ 生徒の自己評価からは、肯定的なアンケート結果が出ている。県下の多様な学びの場の整備・充実に関して、総合学科、総合技術、多部制・単位制高校の成果と課題については、公表の準備を進めている。

○長野の高校生は、何を学び育て欲しいのか。具体的には、講義型の授業から個別最適化多様性、ICT活用等、探究的な学びへの転換がなされていく方向。海外においては学習空間、スペースの取り方等の工夫がなされているが、高校の現状はいかがか。そのような観点からご意見をいただきたい。

→ 新たな学びに対応する学習空間デザインに関しては、検討会がもたれ研究がなされている。県立高校学習空間デザイン検討委員会から今年度末に報告書が提出される。廊下やフロアの活用、地域連携室の設置等の提案がなされる見込み。次回の協議会ではお示しできるかと思う。

(永松座長)

授業の形態を変えることは生易しいものではない。ここはかなり本気でやるぞという姿勢がどの程度のものか理解していきたい。

○身につけてもらいたい力に関して、学力だけでなく、課外活動等、中学校から早い段階で将来の進路を考え、高校を自主的に選択できる力を伸ばしていく必要がある。

○義務教育においても学びの改革が進められている。次年度から小学校では新学習指導要領完全実施。キャリアパスポートの取り組み等、小学校から中学校、高校に繋ぐ連続した改革が始まっている。私立高校の併願希望者が多い旧第3通学区においては、私立の動向も考えていかなければいけない。

○小学校からの連続性という意味を踏まえつつ、高校改革を見ていかなければいけない。

○地域連携に積極的な北部高校が学級減となったが、北部高校は中山間地の高校の役割を果たしている。地元からの進学が1/3、2/3が長野市等から通学している。クラウドファンディングの活動等、地域との連携交流活動、地域課題解決学習が積極的に行われている。社会の窓口となるのが高校であるため、高校だけの改革ではなく、ふるさととどう関わるか、どう関わっていくかの課題についての検討も必要である。

○受け皿としての高校のあり方という発想だけでなく、人生の連続性としての高校のあり方についての視点も必要か。

○長野という「地域」に限定するのではなく、「主体的に学ぶ訓練」を経て、普遍的に最も身につけるべき力は、その段階で必要なことを学んでいく力であると思う。義務の現状から高校ではある程度の規模の学校を用意し、大勢の中で揉まれる体験が必要だと思われる。

○次回あたりの議論になるかとも思うが、子ども達にとって最も適切な学習集団の規模はど

のくらいかと考えていかなければいけない。少子化問題との整合性もあり、かなり難しい問題をはらんでいると思う。

○子ども達にとって十分な選択があることが必要。自分で自分の進路を切り拓いていく力や主体性を小学校の頃から身につけていかなければいけない。発達段階に応じた主体的・対話的な学びから、道をどのように拓いていくかを考える力をつけていく。長野市においても子ども達の多様な学びに要望に応えられる仕組みがいち早くできればいいと考えている。地域の高校は何のためにあるのかという、こういう学びをする高校だということが位置づかなければいけない。

○自ら判断し自ら選択するという部分は、主体的な学びの中で出てくるが、まとめ段階では強調したい。要望に応えられるような多様な学びができる学校が必要であることも出していきたい。

○県内すべての高校に必要な学びと連続した育ちをサポートする多様な学びの場の創造、それぞれの力が発揮できるような高校について検討が必要か。

○北部高校が学級減になった経緯について、何らかの基準に該当したのか。意図があって（何らかの方向性がある）減らしているのか。

→ 募集定員に関しては、中学卒業予定者数の動向や前年の状況を見ながら算出している。

○子どもの主体性を重んじることが必要。集団での学びは重要であると思う。

○総合学科の学びについて、多様性にどう応えていくのか。2年次からのカリキュラムの組み立て等、非常に興味を持った。そこに力を注ぐだけの効果はありとお考えか。先生方も今までに経験のないサポート指導が必要となってくるのではないか。

○個別面談を重ねキャリア発達を支援している。効果は満足度となって表れている。

○旧第3通学区にいれば「色々な選択肢がある」と思えるような学びの場の創造が必要。北部高校にも残ってもらいたい。突出した能力を伸ばせる高校として、N高校は生徒の「やりたいこと」を支援してくれる学校。N高校が飯綱町にあってもよいのでは。

○広島の公立高校の高校改革は、「誰もが面白いと思う突出した高校」を創ろうとする発想で進めている。長野県では、特色を打ち出そうとするとモデル校に手を挙げるしか方法がないのか教えていただきたい。

○市立長野高校でもモデル校を目指したい。子ども達の多様な学びに要望に応えられる仕組みがいち早くできればいいと考えている。長野市でも学級担任固定制やどうやって多様性を広めていくか柔軟な学級運営についても検討を進めている。

○その部分に関して高校改革にもつながるように提案できればよい。地域と高校、学校以外の地域産業とどのように関わっていくか、「こういうことを期待する」など各方面よりご意

見をいただきたい。

○後継者問題が課題となっている。他から来た後継者を育てるという意識と方向性で地域振興が行われている。教育の中で、社会との接点を増々取り入れて欲しいと思う。講義型の授業について一部否定的に論じられているが、知識・技能の習得は最初に抑えなければならぬことである。これからの時代は「広い視野」が必要となる。「広い視野」が持てるような教育の充実を望む。

○旧第2・3・4通学区の地域協議会に出席している。旧第2通学区がこの中では議論が進んでいると思うが、旧第2通学区の特徴として、地域と高校との密着度が非常に高いと感じている。多様性の部分で色々な選択肢を用意する必要があると議論している。地域にしばられるということではなく、世界に羽ばたく意識、地域の活力を維持していく観点で、企業や有識者との繋がりを強める高校の検討もしていただきたい。

○普通科の学びの中でも、経営者や有識者から学ぶ授業があってもよいのではないか。旧第3通学区の高校の学びを魅力あるものにしてもらいたい。

○最終確認として、子ども達の主体性に関して強調したいキーワードが出てきたので、事務局と相談をして反映できる形を考えていきたい。

○多様な学びの場として、色々な子ども達に対応できる意味合いと、子ども達を引き付ける魅力ある学びの場という意味合いでは、会議の後半に議論に入ってきた。今回はこの点から議論を進めたい。